

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39	多様な課題に対応した学習機会の充実	担当課	生涯学習課
------	-------------------	-----	-------

○地域の課題解決に向けた「課題解決支援講座」など、社会情勢の変化に即した多様な学習機会を提供します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題解決支援講座として、公募により決定した富岡市吉田地区において、地域課題の解決・地域づくりに向けた研修会を開催した。 ・全3回の講座に、延べ114人の職員・地域住民が参加した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決に向けた知識や手法を学習する機会を提供することができた。 ・講座終了後、吉田地区地域作り委員会の2月の総会に参加することで、成果や課題を共有することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講座終了後の関係者と連携した地域の課題解決に向けた取組を継続する。

○県内各地で開催される講座や講師人材のデータベースなど、県民ニーズに対応した学習情報を提供します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の講座やイベント、講師人材にかかるシステム「まなびねっとぐんま」の管理、運営、広報を実施した。（年間 講座登録数118件、登録団体数583機関）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・県民へ多様な学習情報を提供することができ、生涯学習の参加に役立てている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の参加を促す学習情報を充実させる。 ・講座・イベント情報を登録する団体数を増加させる。

○効果的な講座の開催や学習情報の提供を行うため、公民館や高校、大学など関係機関との連携を推進します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題解決支援講座(地域編)において、効果的な講座を実施するため、開催地域に造詣の深い大学教授を講師に招へいした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の文化や自然を活かした地域づくりについて、具体的な話し合いを行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の抱える課題に応じた、大学の研究成果を活用する。

○県民の学習成果を地域で生かすことができるよう、自主企画講座の開催に関する情報発信や、講師情報の市町村への提供等を支援します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や団体が主催する講座・イベント(118件)や講師情報(71人)を「まなびねっとぐんま」に登録した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する多様な情報発信をすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習情報提供システムを含め、ぐんま県民カレッジの認知度を向上させる必要がある。

○市町村や社会教育団体等と連携し、障害のある人と障害のない人が共に学ぶ機会を充実します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館において、視覚障害者等用図書として大活字本を購入した。（248千円、77冊） ・県立図書館において、オーディオブック（音読CD）の充実を図った。（97千円、21点）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者等も利用しやすい読書環境の整備を進め、学ぶ機会の充実が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の生涯学習推進に向けて、各分野の関係機関との連携に取り組む必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱1 8 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40 社会教育施設の有効活用 担当課 生涯学習課、(知)文化振興課

○社会情勢の変化に即し、生涯学習の拠点として多くの県民に活用されるよう適切な施設運営に取り組みます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、市町村及び関係機関・団体と連携を図りながら、生涯学習センターを拠点に多様な生涯学習活動の支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 4～5月に臨時休館を行い、6月以降も各施設の定員を制限するなど感染症対策を行ったため、入館者数は45,327人と対前年度比17.7%まで大幅に減少した。 貸館利用者も29,030人と対前年度比23.1%であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に万全を期しつつ、利用制限をしている施設の再開を進めていく必要がある。 今後の施設のあり方や運営体制について検討を進める必要がある。

○多様な県民ニーズに対応できるよう、施設職員の資質の向上及び施設・設備の計画的な更新・修繕に取り組みます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターの利用者の安全のため、劣化していた体育館床の部分補修など各種修繕を実施した。 施設劣化の状況を把握するために必要な定期点検を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備の欠陥、不備等による事故発生はなかった。 点検結果から施設の現状や問題点を捉え、次年度の修繕要望に反映した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設設置後30年以上経過し、補修を要する箇所が多く、利用者の安全とニーズを踏まえ、計画的に補修及び整備を行う必要がある。 多様な県民サービスに対応できるよう、施設職員の資質の向上を図る。

○ぐんま天文台では、大型望遠鏡による天体観察などの本物体験の提供と、きめ細やかな教育普及活動を通して、天文・自然科学への興味・関心を高め、天文学のすそ野拡大を推進します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策によりイベントの中止を余儀なくされたが、 リモート出演による天体教室を実施し、コロナ禍でも開催できるイベントを実施した。 動画配信を活用した日食や流星群等のライブ配信を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> イベントが開催できない状況下でも、利用可能媒体を利用し、天文・自然科学への興味・関心を高めるようなイベントを実施したことで貢献できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安全、利便性に配慮した施設運営管理を行う。 インターネットを活用した情報発信の充実を図る。

○ぐんま昆虫の森では、身近な昆虫との触れ合いや自然体験を重視したプログラムの提供を通して、生き物相互の関わり合いや、生命の大切さ、自然環境に対する理解を深められるよう取り組みます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 季節展や特別展、飼育講座等を実施した。 効果的な学校利用を促進するための教育補完施設としての機能・役割を維持した。（小学校143校利用） 県民参加による施設づくりを実施した。（解説や体験指導ボランティア104人）
成果	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの自然環境に対する理解を深めることに貢献している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の特徴を生かした、季節展や特別展等の主催事業プログラムのさらなる充実を図る。 出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。 インターネットを活用した情報発信の充実を図る。

○近代美術館では、日本と西洋の近・現代美術を中心に幅広い美術品の収蔵・展示、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展の開催や、教育普及活動の充実などに取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：20,878人 ・教育普及事業参加者数：3,922人 ・来館者満足度：94%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業では、「catch the eyes」など計3本の企画展示を開催し、公募展「群馬青年ビエンナーレ」の翌年度への延期を補うべく、コレクション展示を充実した内容で開催した。 ・教育普及事業では、学校団体を30団体受け入れるとともに、こどもアートツアー、こども+おとな+夏の美術館、美術館アートまつり、企画展示に関するシンポジウム等、さまざまな事業を行った。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展示につなげるため、調査研究を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。

○館林美術館では、「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示するとともに、学校教育との連携、幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業などに取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：37,305人 ・教育普及事業参加者数：2,409人 ・来館者満足度：99%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「10のテーマでアートをつなぐ」は新型コロナウイルスの感染拡大により1ヶ月以上遅れての開幕となったが、その間、SNSで会場の様子や作品解説を動画で発信した。 ・感染防止対策が評価され、「安野光雅」展には多くの来館者が訪れ、人数を限定して教育普及活動も再開できた。美術館を訪れたいという人々の熱意や作品のパワーを再認識した。 ・「大下藤次郎と水絵の系譜」「竹久夢二」展も大きな反響があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は開館20周年にあたるため、多くの来館者に館林美術館の魅力を積極的にアピールしたい。

○歴史博物館では、東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、展示室でのタイムリーなトピック展示や企画展の開催、小・中学校の歴史教育での利用促進を行います。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：58,828人 ・教育普及事業参加者数：20,305人 ・来館者満足度：92%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「群馬県綿貫観音山古墳出土品」の国宝指定を記念した企画展を開催し、デジタル技術を駆使した国宝展示室をリニューアルオープンさせた。 ・教育普及事業や学校団体の受入は、新しい生活様式に沿った形態に改善して実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大を受けて4月・5月を休館とし、開館後も入館を事前予約制としたため、入館者数は前年度比53%にとどまった。今後も、制限のある中での入館者数の拡大や、学校教育との連携強化を目指していきたい。

○自然史博物館では、地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然をジオラマ等で紹介するとともに、観察会など各種教育普及事業等に取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者：105,397人 ・教育普及事業参加者数：22,992人 ・来館者満足度：100%（常設展示）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第62回企画展「空にいどんだ勇者たち」を開催した。3、4、5月は緊急事態宣言発出のため全館休館。6月2日から再開（時間指定、人数制限による事前予約制）し、12月6日まで会期を延長して行った。 ・展示点数：187点（うち当館所蔵標本58点）、期間中観覧者数：62,648人、満足度：95%
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防策を徹底しながら、安心・安全で、来館者満足の向上に繋がる教育普及事業を企画、実施していきたい。 ・ウィズコロナにおける持続的な学習プログラムの開発を行いたい。

○土屋文明記念文学館では、本県ゆかりの文学資料の収集・研究、魅力ある企画展や文学講座の開催、学校と連携して短歌を中心とする文学に関する教育普及活動などに取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者・利用者総数：23,037人（うち教育普及事業参加者数：16,647人） ・来館者満足度：95%以上 ・展覧会、講座 <ul style="list-style-type: none"> 第108～110回企画展（計3回）、特別展（計1回）開催。 文学講座（計2回）、参加101人。 ・教育普及事業（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> 「歌人が学校に！」（短歌教室）実施1校、参加93人。 高崎市立上郊小学校児童生徒短歌展 実施1校、参加93人 学校団体受入 7校（小学校2校、中学校4校、高校1校、大学1校）、参加701人（延べ） 出張授業（学校連携）2回、93人（延べ） なつやすみおはなしのへや、ミニシアター 期間：7～8月、参加271人（延べ）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第109回「若き日の土屋文明—あまた人々の恵みあり—」では、土屋文明生誕130年没後30年記念展にふさわしい貴重資料を多数紹介できた。 ・行事の中止や会期変更など、コロナ対応の中での企画展開催となったが、アンケートなどによる観覧者の満足度は95%以上と高く、多くのお客様に好評価をいただいた。 ・tsulunosでの動画公開やSNSでの情報発信など、Webを活用して県民の皆様楽しんでいただけた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者目線で、より魅力的な展示及びイベント等を実施したい。 ・動画配信等を活用しながら、文学全般の魅力を県内外に発信したい。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組41 読書活動の充実と県立図書館の機能強化 担当課 義務教育課、高校教育課、生涯学習課

○全ての県民の読書活動を支援するための環境整備を推進します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索システムの運営を行った。(利用回数264,164回) ・相互貸借システムの運営を行った。(利用回数:11,908回) ・図書館未設置町村の公民館図書室に対する図書一括貸出を行った。(利用冊数:9,090冊) ・円滑な物流のための市町村支援協力車の定期的な運行・居住地返却を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索や相互貸借システム運営により、県内各地の所蔵資料を幅広く利用してもらうことで図書館の利用が促進され、県民の読書環境が向上した。 ・図書一括貸出の実施により、人口の少ない地域住民へ利用可能な図書数を増やすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館横断検索や相互貸借システムの周知を行う。

○子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、学校、家庭、地域で連携した取組を進めます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校ビブリオバトル2020群馬県大会を開催した。(参加者:48人) ・読み聞かせボランティア向け研修動画を制作し、学校や図書館等で活動するボランティアへ周知した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校ビブリオバトル2020群馬県大会の開催により、県民に高校生の読書活動について関心を持ってもらうことができた。 ・子どもの読書活動に大きな役割を担う読み聞かせボランティアのスキルアップを図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域における読書環境を整備する。

○県民にとって身近な市町村立図書館(室)の充実を図るため、図書館ネットワークの中核館として県立図書館による支援を実施します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相互貸借担当者会議の開催は中止となったが、資料配布で対応した。 【群馬県図書館協会事業】 ・図書館(室)職員初級研修を開催した。(参加者:59人) ・図書館(室)職員実務研修を動画配信で開催した。(申込者:63人) ・群馬県図書館大会を開催した。(参加者:245人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実務的な内容を学ぶための研修会や図書館運営等の見識を広げるための図書館大会を開催することで、県内公共図書館職員に学ぶ機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の公共図書館・図書室、大学図書館、学校図書館のネットワーク化を推進する。 ・県内公共図書館職員の資質向上及び図書館サービスの向上を図る。

○県立図書館における県民の課題解決につながる高度な専門的情報サービス（レファレンスサービス）を提供する機能を充実します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・高度で専門的な調査・研究に対応するため、新たに600冊のレファレンス資料を受入・整備した。 ・通常のWeb検索では入手できない情報が手に入る商用データベースを提供した。 ・SNSを活用して、調査相談室の機能を紹介する連載記事をアップした。 ・新型コロナウイルス感染症対応の一環として、非来館型サービスのオンライン相談（ぐんまオンライン相談予約システム）を開始した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村立図書館や学校図書館等で解決できない難解・高度なレファレンス事案を72件受付・回答した。 ・受け付けた質問をもとにして、今後のレファレンスに役立つ事例を新規に230件データベースへ登録した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・商用データベースの種類・スペックの拡充を図る。 ・レファレンス技術・知識の承継を図り、より高度で専門的な調査に対応できる職員の人材を育成する。 ・市町村立図書館及び学校図書館等への協力レファレンスを更に推進する。 ・若年層へのレファレンスサービスの周知を図る。

○身近な読書環境の一つとして、県立高校における学校図書館の一般開放を行います。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初に、県立高校における学校図書館の一般開放を実施しないこととした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の一般開放を実施していない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者以外の方が来校するため、生徒の安全確保について課題がある。 ・地域の感染状況を見極め、学校図書館の一般開放事業を進めていく必要がある。

○司書教諭や学校図書館職員の専門性を高め、児童生徒が興味・関心を持って積極的に利用するような学校図書館づくりを推進します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実、学校図書館のネット環境整備の充実が図れるよう助言した。 ・県教委HPに学校図書館年間活用計画、授業実践を掲載した。 ・12学級以上の公立小・中学校における学校司書発令状況が100%であった。 ・学校図書館研修会を開催した。（受講者：49人） ・学校司書のための学校図書館活用講座を動画配信で開催した。（申込者：45人）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」の実践校では、図書館司書と連携した授業が実践されることで、学校図書館の利活用が促進された。 ・司書教諭の配置により、学校図書館司書との連携が図れ、学校図書館の環境整備や、読み聞かせ等の読書活動の推進をすることができた。 ・有識者による講義や具体的な演習により、学校図書館の利活用に関与する内容を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実践校の取組について、多くの学校に周知し、学校の実態に応じた学校図書館の利用を推進する必要がある。 ・司書教諭や学校司書の研修を充実することで、県立図書館や公立図書館との連携をさらに進めていきたい。 ・今後も、講師の選定や内容を工夫しながら、継続して研修会や講座を開催していく。

○学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図り、各教科・科目等における学校図書館を利用した指導や、日常生活における読書活動を推進します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実、学校図書館のネット環境整備の充実を図れるよう助言した。 ・県教委HPに学校図書館充実事業実践校の学校図書館年間活用計画、授業実践を掲載した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」の実践校では、各教科における学校図書館を利用した指導が充実した。 ・「読書センター」としての役割だけでなく、「学習センター」「情報センター」として学校図書館を活用する授業実践が見られ、それぞれの機能の充実が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実践校の取組についてHPで公開しているものの、多くの学校にいかに関知していくかが課題である。 ・「情報センター」機能の充実を図るため、県内各学校でネット環境の整備を推進していくことが課題である。

施策の柱 1 8 における指標の状況、令和 3 年度の方向

指標の状況

指標		策定時		目標値	2021. 4 月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「まなびねっとぐんま」トップページのアクセス件数		58,798件	2017	73,800件	38,689件	2020	-134.0%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各市町村で講座が実施されなかったことが影響した。また、H29から有料の民間カルチャーセンターを連携講座から除外したため、以降のアクセス数が減少している。
昆虫の森、天文台の入場者数（2所の合計）		145,110人	2017	148,000人	81,287人	2020	-2208.4%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日～6月30日まで閉園したことや、不要不急の外出を控える動きが影響した。
県立図書館におけるレファレンスサービス件数 (事柄や事実調査、文献調査等の専門的情報提供サービスの件数。利用相談(書架案内や所蔵調査)は除く。)		6,867件	2017	7,700件	4,838件	2020	-243.6%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月・5月は臨時休館。またそれ以降も現在まで、換気と消毒のため、開館時間を短縮(12時～13時閉館)している。

令和 3 年度の方向

- ・各館の利用を促し、その機能を充分活用してもらうために、ホームページやデータベースの改善等を図る。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組42	地域の学びを支える人材づくり	担当課	生涯学習課
------	----------------	-----	-------

○人権教育や青少年教育等、各分野における指導者の育成を進めます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事務所ごとに「群馬県人権教育の基本方針」「群馬県人教育充実指針」に基づいた人権教育を推進するために必要な事項の研修や協議を計5回実施。152名を養成した。 ・地域青少年活動指導者や青少年団体指導者等を対象に、青少年会館において指導者養成講座を実施した。（子どもとふれあいスキルアップ講座をオンライン開催。受講者43名。） ※子どもを未来に導く指導者セミナーは中止。市町村青少年教育担当者会議は隔年開催のため、令和2年度は開催なし。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・人数を制限した参加体験型学習会や資料配付・動画配信による研修を実施することで、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、地域の指導者としての人権感覚を高めることができた。 ・参加者自らの課題の解消につながっただけでなく、参加者同士の交流を深めることもでき、新たなネットワークを構築することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成の充実と資質の向上を図る。 ・「群馬県人権教育充実指針」の11の重要課題に計画的に取り組む必要がある。

○育成した指導者が、公民館や学校等地域で活躍できるよう、市町村等に働きかけます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別人権教育指導者研修会において、市町村担当者に対し、指導者の積極的な活用について依頼した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の活用に関して、活躍の場の設定や指導者の意識に課題があることを市町村担当者と共有できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・育成した指導者の活用に向け、市町村への支援について県で検討をする必要がある。

○社会教育主事、社会教育委員、市町村担当職員等、社会教育の中核となる人材の資質能力を向上させます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育の推進に向けて、県市町村社会教育主事及び関係施設職員等を対象に、県社会教育主事等職員研修会を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 ・社会教育委員の資質向上に向けて、県市町村の新任社会教育委員等を対象に、新任社会教育委員研修会を実施した。（新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面による研修は中止し、資料送付をもって研修に代えた。） ・生涯学習社会の構築に向けて、県市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育関係団体の関係者、社会教育行政関係者等を対象に、県社会教育研究大会を実施した。（Web会議システムによるオンライン研修 参加申込者245人）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事や社会教育委員等を対象とした各種研修会において、現在期待される社会教育の役割や県内外の先進事例について、オンラインによる講演や事例発表（紙面発表）など効果的に研修することで、社会教育の中核となる人材の資質能力の向上につなげることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において県全体の社会教育をさらに推進するため、社会教育関係職員を対象とした各種研修がより効果的な研修になるようオンラインと対面を使い分けるなど、研修方法及び内容を工夫する必要がある。

○福祉などの社会教育に関係深い部局との連携や市町村における社会教育の振興を図るとともに、各社会教育関係団体の育成及び団体間の連携を進めます。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育団体に対して活動の充実を図るための事業費補助を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における社会教育活動の活性化が図られるとともに、県が実施する社会教育推進上の諸施策にも積極的に協力していただいた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化等による団体活力の低下を防ぐ必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組43	青少年教育の推進
担当課	高校教育課、生涯学習課、(知)生活こども課、(知)児童福祉・青少年課

○自然体験や各種体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所にて、林間学校等で利用する学校等に対し各種プログラムを提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ○提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト作成等 ○学校等利用団体数：173団体
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自然の家の管理運営を通して、生活体験や自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの「生きる力」の育成に貢献している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境及び地域の伝統・文化等、各所の特色を生かし、各事業のプログラムの充実を図る。 ・学校や青少年団体、家族、企業等の利用拡大に向け、動画の作成等による広報の推進を図る。

○親子や異年齢・異世代での体験活動・集団活動を通じて、家庭や地域の教育力の向上を目指します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所にて青少年自然体験事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○親子体験活動（親子キャンプ、登山、星空観察等）参加者数 延べ270人 ○自然体験活動（オープンデー、冬期ホリデー、出前講座等）参加者数 延べ1,298人 ○宿泊自然体験活動（3泊4日程度の長期キャンプ）参加者数 中止
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年及びその保護者を主たる対象として、様々な自然体験活動を提供することにより、青少年の主体性や協調性、社会性、問題解決能力等「生きる力」を育成するとともに、家庭や地域の教育力向上にも資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、青少年団体等のニーズに沿った新規プログラムを開発し、提供していく。 ・出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。

○青少年のボランティアを養成するとともに、ボランティア活動の場を提供します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所において以下の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○青少年ボランティア養成 延べ45人受講、青少年ボランティア体験 延べ320人参加 ・(公財)県青少年育成事業団による指定管理事業を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア体験講習会 動画配信により実施、中学生・高校生交流ボランティア体験 中止
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の心構えや留意点等について講義・演習を実施するとともに、ボランティア活動の場を提供することにより、社会の構成員としての規範意識や責任感、倫理観等を身に付けた青少年ボランティアの育成に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成では、各所の自然環境等を有効に活用し、講義・演習のプログラムについて充実を図る。また、必要に応じて動画配信等を活用していく。 ・ボランティア体験では、より多くの中高生が参加しやすいような実施時期及び日程を検討する。

○不登校、非行、ひきこもり等、様々な悩みを抱える青少年及びその保護者等を対象に、相談活動や体験活動を通して自立・再学習支援事業を行うほか、青少年の意欲を高め、自立を促す活動プログラムを効果的に実施します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）を実施した。 相談等延べ件数：1,398件、体験活動実施数：14件（延べ28件）、進路相談会：2回開催 ・学びを通じたステップアップ支援促進事業を実施した。 学習相談：662人、学習支援：計60日実施、参加延べ人数138人 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援を継続的に行うことで、復学や進学、高卒認定試験の受験等につながった利用者も見られた。相談活動・体験活動・学習支援等の提供を通して、当該青少年の自立や保護者への支援に資することができた。 （訪問支援継続中15件（うち観察対象1件））
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ができないひきこもり状態の利用者に対して、本人の希望に沿った形での相談方法を検討していく。また、必要に応じて関係機関との連携を図りながら支援を行っていく。 ・支援を必要とした若者が本事業につながるよう、広報活動を充実させ事業周知に努める。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○青少年関係団体の活動の活性化を通じた青少年健全育成を目指し、県内全域で活動する青少年団体との連携や団体への支援を行います。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育（青少年教育）関係団体事業補助金を実施した。 （青少年教育関係3団体（日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども育成連合会）における活動に対して補助金を助成。 ・青少年健全育成に係る事業の実施、指導者育成を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会への補助金による支援を通して、青少年健全育成の一助とすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織に属していない一般の青少年も参加可能なイベントの実施について、推進していくことが望ましい。

○中・高校生が将来の家族形成を含めた人生設計を考えるため、自らのライフデザインを考える機会の創出に取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業において、青年期の自立や課題、子供や高齢者の生活と福祉などの学習を通して、様々な人々に対する理解を深めることができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割や、共に支え合って生きる社会重要性等、ライフデザインについて考えさせることができた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生の各ライフステージの特徴と課題について理解し、自立した生活を営むための意思決定やライフデザインの在り方について、将来の生き方の構想を描くことができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割、共に支え合って生活することの重要性について認識することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が早い段階から、自分の将来の家族形成を含めたライフデザインを考えることは重要であるが、中・高校生が「キャリアデザイン」に比べ、自らの「ライフデザイン」を考える機会はいまだ十分であるとは言えないため、さらに様々な機会の創出を進める必要がある。 ・自己実現、将来の家庭生活などについて考え、自立や家族・家庭の在り方、子供や高齢者の生活などについて理解し、共に協力していくことの重要性を理解する必要がある、引き続き継続して実施する必要がある。

施策の柱19における指標の状況、令和3年度の方向、基本施策8に対する点検・評価委員会の主な意見、全体に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2021.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「青少年ボランティア養成事業」に係る事業への参加者数（県立青少年自然の家3施設＋青少年会館の合計）		584人	2017	650人	366人	2020	-330%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部事業が中止となった。

令和3年度の方向

- ・ボランティア養成事業では、各所の自然環境等を有効に活用するとともに、ボランティア活動を行う際の心構えや留意点等、受講者がボランティアの基礎を一通り学べるよう、講義・演習のプログラムについて充実を図る。
- ・ボランティア体験事業では、中高生が参加しやすいように主催事業及び夏季休業中だけでなく、秋から冬にかけての土日にも募集を行う。また、参加者の希望で日帰りか宿泊かを選択して参加できるようにする。
- ・ボランティア活動に興味がある若者が情報を得られるように、広報活動を充実させ事業周知に努める。
- ・県内大学、民間等と連携を図り、高校生を対象としたライフデザインを考える機会の提供を進める。

基本施策8に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・社会教育施設において、コロナ禍で入場者数を思うように伸ばせない中、SNSや動画配信等を利用して情報発信を行ったことで、県民に学びの機会を提供することができた。
- ・本県は特徴的な社会教育施設を多く有しており、子どもたちに学校教育では得られない学びを提供している。今後も、職員を学校へ派遣し授業を行う等の活動を通じて、子どもたちの興味関心を高めるような取組を継続してほしい。

課題

- ・今後、SNSや動画配信によるPRについて、サイトへのアクセス回数や動画再生数等を基に、効果についても検証する必要がある。
- ・不登校やひきこもりの原因には様々なものがあるが、個々に合わせた適切な支援を行っていくことにより、社会とのつながりを持てるように導いていくことが必要である。

全体に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・コロナ禍の混乱の中においても児童生徒の学びを止めず、更に「教育イノベーションプロジェクト」等の新たな取組を推進するなど、県教育委員会が丸となって課題の解決に当たった。
- ・本県が有する社会教育施設は、子どもたちに貴重な学びを提供する場となっている。

課題

- ・1人1台端末等のICT環境整備が積極的に進められたが、今後、全ての教員及び児童生徒のICT活用スキルの向上が課題である。
- ・教員にとって働きやすい環境を整備することが教員の魅力向上にもつながるため、今後も継続して働き方改革の取組を推進する必要がある。
- ・不登校・ひきこもり等の悩みを抱える青少年が社会とのつながりを持てるよう支援していくとともに、学校教育において豊かな人間性を育む教育活動をより一層推進していく必要がある。